

北見赤十字病院（認知症疾患医療センター）市民公開講座

「身近な人が認知症ではないかと感じたら・・・」

～認知症になっても安心して暮らせる街づくり～ 開催報告

日時：平成 29 年 11 月 11 日(土)13:00～14:30

会場：北見赤十字病院 多目的ホール「ミント」

今回、市民公開講座を開催致しました。当日は150名の市民・関係者の皆様にご来場いただき盛大に終えることができました。ご協力ありがとうございました。以下、講座の内容を報告致します。



【パネルディスカッション】

〈座長〉北見赤十字病院 吉田茂夫 病院長

1. 北見市認知症の人と家族の会（よりそいの会）事務局長 齊藤 孝司氏

齊藤氏より、ご自身の両親を介護した経験を基に、認知症の方に対する家族の介護における苦勞や対応の仕方、大切な人の認知症が進んでいく際の家族の心情についてお話頂きました。

また、よりそいの会 事務局長の立場から、例会以外に、「男性介護者の会」や「女子会」と、会員が参加し易い集まりを設けています。例会では初参加した家族が、介護について話し泣き出してしまうこともあります。同会は、介護者である家族が気兼ねなく気持ちを表出でき、長い間一人で抱えてきた辛さを会員同士で分かち合える場と言えます。さらに、ふまねっと、コグニサイズを町内会や老人倶楽部等で実施しており、齊藤氏はコグニサイズ指導者としても活動中で、「家に閉じこもらず、外に出て元気に活動しましょう。それが認知症予防につながります。」とのメッセージをいただきました。



2. 高齢者相談支援センター南部

認知症地域推進員 垂石 ゆかり氏

高齢者相談支援センターの役割・相談内容・来談者種別・支援内容について事例を挙げて分かり易くお話頂きました。さらに、参加者に、「認知症の方が身近にいた場合、自分達は何なことができるでしょうか?」と、参加者へ問い掛ける場面もありました。

H29. 4月より、各高齢者相談支援センターに、認知症に関する専門職員として認知症地域支援推進員が設置され、垂井氏は同職と集中支援チーム員としての役割も担っているとのこと。

最後は、「認知症への関心を持ち、地域の方が手を差し伸べる協力の輪を、地域の中に広げたい。」との言葉で締めくくられました。

3. 道東脳神経外科 事務部次長 山崎 章 氏

医療機関には相談窓口としてソーシャルワーカーが配置されています。ソーシャルワーカーは、「話を聴く、整理する、対策を考える」「情報を院内スタッフへ伝達」「福祉と医療の連携」等を行う職種ですので、ぜひ安心してご相談下さいとのことでした。



また、もの忘れ外来について知り、準備しておくことの大切さにも触れていました。認知症の早期発見・早期診断に加え投薬も行います。専門的な検査（認知機能・画像）が可能です。具体的には認知機能検査、CT、MRI、脳血流検査等を受けられます。まとめとして、1. 医療・福祉の知識を得る（頭の準備）、2. 相談窓口を知っておく（心の準備）、3. 早めに対応する（身体の準備）ことが大切であるとお話頂きました。

4. 北見赤十字病院 認知症看護認定看護師 看護係長 福島 恵美子氏

現在全国に約1,000人、北海道に72名の認知症看護認定看護師が活躍し、当院では福島氏を含め2名が在籍しています。認知症看護認定看護師の役割は認知症の方の権利を守り、意思表示能力を補う等挙げられるが、要約すると、「認知症の人の最大の味方になる事である」との言葉が印象的でした。

新オレンジプランに定められた認知症初期集中支援チームは、医療・福祉の多職種で構成したチームが早期に発見し、介入することで住み慣れた地域で安心して暮らせるように体勢を整える役割を担っています。それらを、事例を用いて北見市における活動の実際についてご説明頂きました。

「認知症は病気である。誰にでもなる可能性があり、隠したり、怖がる必要も無い。早く見つけて、適切に対応することが大切。高齢者相談支援センターや認知症疾患医療センターに相談して欲しい。」との言葉でお話を終えられました。

5. 北見市保健福祉部 介護福祉課 介護予防係長 椎名 真理 氏

椎名氏からは、北見市における認知症予防についてお話し頂きました。H29年北見市の高齢者人口37,358人、高齢化率31.4%が、H37年には高齢者人口37,788人、高齢化率34.9%に増加すると予想されます。並びに認知症自立度Ⅱ以上の高齢者は年々増加しており、H27年北見市の新規介護保険認定申請者原因疾患1位は認知症です。

北見市で実施している、65才以上一般高齢者を対象とした認知症予防事業には、「脳げんきチェック講座」～ファイブ・コグ検査や認知症予防の講話、「脳とからだいきいき教室」～脳の健康度テスト・転倒予防体操・脳活性レクリエーション等があります。これらを終了した参加者から、自主グループが誕生しています。その他、認知症の普及啓発事業として「認知症サポーター養成講座」、地域で支える体制づくりとして「認知症サポーターのいるお店登録事業」「家族介護者の支援」「SOSネットワーク」等、様々な事業を実施しています。認知症予防のためには、食生活・運動習慣・脳の活性化等を、仲間を作って楽しみながら長く続ける事が重要とのお話でした。

最後は本講座に関する質問をお受けし、フロアと座長・パネリストによる活発な質疑応答があり、関心の高さが伺えました。参加者アンケートにて、「大変参考になり、良い講演会だった。」「講演時間を長くして、もっとゆっくり聞きたかった。」「他人事では無い。」「関心を持ってもらうこと、支え合うための情報共有が必要」との意見を頂きました。今後も、市民の皆様の声を活動に反映しつつ講演会・研修会等で情報発信していきたいと思っております。皆様のご参加をお待ち申し上げます。
(事務局 伊藤 記)